

実えんどうの管理について

管理のポイント	1 適期に整枝・追肥管理を行う 2 病害虫の初期防除を確実に行う
---------	-------------------------------------

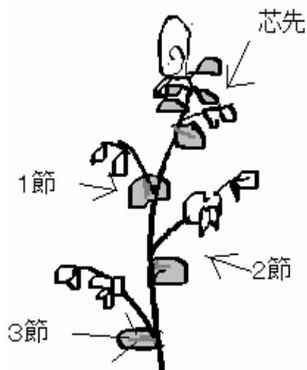
1 今後の管理

(1) 整枝・誘引

主枝や低節位の伸びの良い枝だけを1m間に20本 側枝は整理する程度残します。
脇芽は取り除き、やぶにならないように管理を行います。



(2) 追肥



生長点から数えて3節目が開花するくらいの草勢を保つように追肥を行います。
弱い場合は葉面散布で草勢をつけましょう。
(3~4日おきに3・4回行うと効果的)

2 主な病害虫

今作は降雨が多いわりに害虫の発生が多くなっています。
良く観察して病害虫の初期防除に努めましょう。

モザイク病	 <p>生育が極端に遅かったり、全体的に黄緑色の株になったりする (左写真はモザイク症状) アブラムシによって病気がうつります 発生した株は抜き取り、ほ場外は持ち出しましょう</p>
褐斑病・褐紋病	  <p>褐色の斑点が葉や莢に発生し、 激発すると株全体が茶色になります 降雨後や多湿時に発生します 予防的に薬剤による防除を行います</p>
灰色かび病	 <p>咲き終わった花びらに灰色のかびが生えてきて、 多発すると莢にも病斑が入ります (左写真はナスの灰色かび病) 降雨後や多湿時に多く発生します 花びらを取り除くか、薬散で予防します</p>

うどんこ病		<p>白い小さな斑点ができ、やがて拡大して葉全体に白い粉をかけたようになります 比較的乾燥時に発生しやすい病気です 発生初期に葉散による防除を行いましょう</p>
アブラムシ類		<p>汁を吸う時にウイルス病を移す ウイルス病に感染した株は、葉や株が萎縮し、正常に生育しない 多発すると、植物体が排泄物で汚れ、すす病が発生する</p>
ハモグリバエ類		<p>幼虫が葉の中に潜って絵を描いたように食害をする ※葉散によって却って被害が広がる場合がある</p>
ウラナミシジミ	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>成虫</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>幼虫</p> </div> </div>	<p>成虫が蕾や花に卵を生み付け、幼虫が莢に入って食害する</p>
ヨトウムシ類		<p>緑色や茶色の芋虫が大量に発生し食害する 大きくなってからでは薬剤の効果が出にくいので、小さい時に防除する 葉裏や芯先に居るので、そこに薬をかける</p>